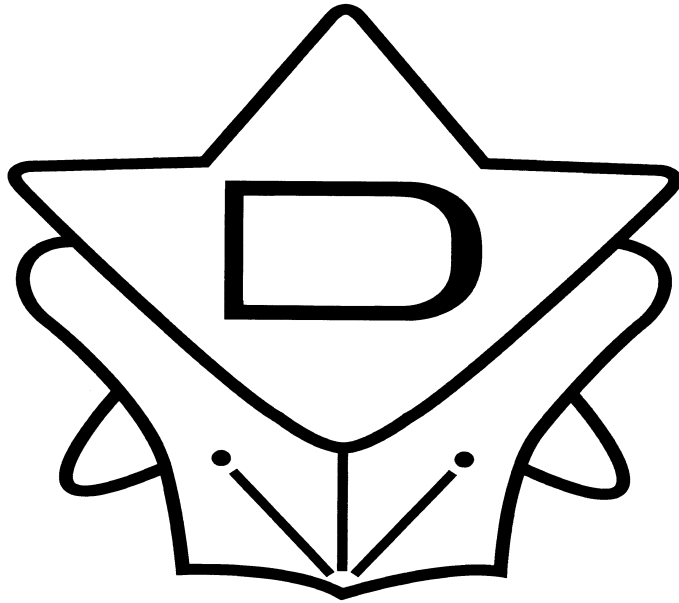


令和2年度

学校評価



沖縄県立沖縄ろう学校

校訓

- ・豊かなことば
- ・強い心
- ・健やかな体

幼4名 小7名 中7名 高3名 計21名 提出 65.6%(32名中)

評価項目 A:かなり思う B:やや思う C:やや思わない D:思わない

	幼稚園部					小学部					中学部					高等部					合計				
	A	B	C	D	%	A	B	C	D	%	A	B	C	D	%	A	B	C	D	%	A	B	C	D	%
1	2	2	0	0	0%	6	0	1	0	14%	5	2	0	0	0%	2	0	0	0	0%	15	4	1	0	5%
2	4	0	0	0	0%	5	1	1	0	14%	4	3	0	0	0%	2	0	0	0	0%	15	4	1	0	5%
3	4	0	0	0	0%	6	1	0	0	0%	4	3	0	0	0%	1	1	0	0	0%	15	5	0	0	0%
4	2	2	0	0	0%	6	1	0	0	0%	5	2	0	0	0%	2	0	0	0	0%	15	5	0	0	0%
5	3	1	0	0	0%	5	1	1	0	14%	2	5	0	0	0%	1	1	0	0	0%	11	8	1	0	5%
6	2	2	0	0	0%	5	1	0	1	14%	4	3	0	0	0%	1	1	0	0	0%	12	7	0	1	5%
7	3	1	0	0	0%	6	0	0	1	14%	5	2	0	0	0%	1	1	0	0	0%	15	4	0	1	5%
8	3	0	1	0	25%	5	1	1	0	14%	6	1	0	0	0%	2	0	0	0	0%	16	2	2	0	10%
9	2	1	1	0	25%	3	3	1	0	14%	4	3	0	0	0%	0	2	0	0	0%	9	9	2	0	10%
10	2	0	0	0	0%	6	1	0	0	0%	5	2	0	0	0%	1	2	0	0	0%	14	5	0	0	0%
11	1	0	1	0	50%	3	3	1	0	14%	4	3	0	0	0%	1	1	1	0	33%	9	7	3	0	16%
12	2	0	0	0	0%	6	1	0	0	0%	5	2	0	0	0%	0	3	0	0	0%	13	6	0	0	0%
13	2	0	0	0	0%	6	1	0	0	0%	5	2	0	0	0%	1	2	0	0	0%	14	5	0	0	0%
14	1	1	0	0	0%	4	3	0	0	0%	5	2	0	0	0%	2	0	1	0	33%	12	6	1	0	5%
15	2	0	0	0	0%	5	2	0	0	0%	5	2	0	0	0%	3	0	0	0	0%	15	4	0	0	0%
16	2	0	0	0	0%	6	1	0	0	0%	4	3	0	0	0%	0	3	0	0	0%	12	7	0	0	0%
17	1	0	0	0	0%	4	3	0	0	0%	5	1	0	0	0%	1	1	0	1	33%	11	5	0	1	6%
18	2	0	0	0	0%	5	2	0	0	0%	5	1	0	0	0%	0	2	0	1	33%	12	5	0	1	6%

設問

1	本校の教育目標は、子どもたちの実態や保護者、地域の皆様の願いを踏まえたものになっていると思う。
2	本校では、聴覚に障害がある子どもたちに応じた、教育活動が行われていると思う。
3	本校の教育活動全体を通じて、あいさつや他人に対して感謝と思いやりの心をもつ、社会のルールを守るなどの望ましい生活習慣の指導に努めていると思う。
4	本校では、子どもたちに基礎的・基本的事項の確実な定着を図るために、個に応じた指導の工夫に努めていると思う。
5	本校では、子どもたちの障害の状態等に応じて、コンピュータ等の情報機器を活用するなどの工夫をしていると思う。
6	本校では、子どもたちの将来の進路（就学・進学・就労など）選択に向けて、各学部で発達段階に合わせて計画的に進路指導に努めている。
7	本校では、子どもたちのよい点や学習の進歩状況などを積極的に評価し、指導の改善を行い、子どもたちの学習意欲向上に努めていると思う。
8	本校では、各学部の発達段階に合わせた様々な校内・校外での体験活動（創作活動やバス利用、買い物、公共施設利用など）を取り入れた指導を通し、社会自立に向けた指導を行っている。
9	本校では、幼児児童生徒が主体的で意欲的に学校図書室を利用するよう促すための学習活動や読書活動の充実に努めていると思う。
10	本校では教育相談や健康相談等について、子どもの指導や心身の健康についての相談に対し、真摯に対応し応じられるように努めている。
11	本校では、地域の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等と連携を図り、交流及び共同学習を行っていると思う。
12	本校は子どもたちの安心・安全な学習環境を図るために避難訓練等の防災訓練を行っていると思う。
13	本校では、情報保証のための教育環境の整備（集団補聴システム等）や施設設備（パトライト、掲示板・電光掲示板等）の充実に努めていると思う。
14	本校では、PTA活動（PTA総会・PTA評議委員会・交流スポーツ大会・手話研修会等）は活発であると思う。
15	本校では学校からの便り（学部や学年、学級便り、図書、保健、給食、寄宿舎など）を通して、保護者に情報を絶えず提供し、機会あるごとに意見を求めていると思う。
16	学校は、保護者の教育的ニーズに応えるために真摯に取り組んでいると思う。
17	学校では、いじめは行われていないと思う。
18	学校では、子どもたちへの体罰は行われていないと思う。

総評	今年度はコロナウイルス感染対策におかれ、当初計画の変更や中止など厳しいものがあった。それらに付随して子どもたちの間でのコロナ差別や不安が重なり、一部差別的なことが起こった。また、中高の就業体験先の確保や高等部卒業後の進路などかなり厳しく、生徒本人だけでなく保護者や職員の中にもかなり不安を持つなど負担が見られた。かなり行動制限が行われる中、先生方は工夫を凝らし頑張ってくれたと思う。
----	---

※ 学校をさらによくするために、要望がありましたら書いてください。

【幼稚部】 ① コロナ禍で難しかったかもしれませんが、文化祭・学習発表会の参加者は同居家族は全員、兄弟の参加も希望者は可能にしてほしかったです。式典（修了式や始業式）などは、家族2人でもいいと思います。普段の学校生活の成果の発表の場なので、兄弟・姉妹にも見せたかったです。 ② 少人数なので、いろいろなことを臨機応変に対応してほしいと思う。コロナ禍での文化祭では会ったが、出入口を分ける等を行ったりし、せめて家族だけでも参観できたらよかったと思う。障害を持つ兄弟が頑張る姿、先輩方を見ることで、家族から障害を理解していくのにとっても重要だと感じます。少人数ならではの方法がこれから沢山出てきてほしいです。
【小学部】 ③ 私の子どもは、補聴器のみの使用で声を使っても会話は十分に可能ですが、本校に来た理由のひとつに手話を身につけるというもう一つの目的があったからでした。「声が死ぬから手話は使っていない」と2～4年生の間は手話は十分に身につけられていなかったのかと少し残念な気持ちになりました。今後はどちらにも対応して、たくさんのお友達と会話・手話を楽しんでもらえたらと思います。 ⑦ 母子家庭の生活は母親の働きあって生活が成り立っています。1ヶ月前にシフトが組まれると休みを取りにくくなります。例えば、新入生オリエンテーション予定日が3/29と決まっていますが、時間のお知らせが遅いと困ります。役員も我が子の学校だからこそ、都合をつけて対応します。どうか調整しての来校であることですが、欠勤扱いとなっていることもあります。何にしても早い日程案内は、保護者の参加を促しやすくなります。どうしようもない時があることも理解しながら、確実な参加を求めるからこそのご対応をよろしく願いいたします。各担任の熱心なご指導に日々感謝しています。
【中学部】 ⑦ー1 一部の先生ですが、積極的な挨拶が見られないのが残念に思います。挨拶しようと思いついていても目がわず…。子どもたちにもそうだとしたら挨拶のきっかけが難しいです。 ⑦ー2 様々なコロナ対策、いつもありがとうございます。授業ではマスクではなく、フェイスシールド装用で指導してもらいありがたいです。口元が見えるのはとても大切だと思います。今後もよろしく願いします。発表会でのコロナ対策はとても良く、安心感がありました。（人数制限が残念でしたが、今は仕方ないですね。納得しています。）学校の入り口（ロータリー？）、玄関前など、季節に応じたデコレーションだったり、案内板などかわいく作ってくださって、いつも楽しく見えています。子どもたちもうれしいと思います。用務員の興儀さんありがとうございます。
【高等部】 なし

幼稚部の記述に関して

①② 学校としても本来はご家族だけでなく、卒業生や転校生、関係団体にも広く見ていただきたいと思っております。しかしながら、一方で学校の子どもたち、職員、来場される方々の健康・安全も考慮しないわけにはいかなく、折衷案として、ギリギリの選択となりました。ご家族のご不満は当然のことと理解しておりますが、学校としての安全にご理解を頂きたいと存じます。

小学部の記述に関して

③ 本校での聴覚障害者教育において、手話での会話や聴力の活用はどちらも必要と感じています。全く手話を使わない学校生活にならないよう、この機会を通して職員に改善を求めていきたいと思っております。
⑦ 今年度はコロナの影響から学校としても日時の指定が大変厳しくありました。特に高等部入試に関しては通常の二次募集に加え、コロナ感染防止対策から追試の日程が4月の入学式の後まで設定される状況でした。諸々の諸事情はありますが、保護者のご不満は当然のことと存じております。できるだけ保護者の皆様のお仕事にも影響が出ないよう早めに取り組みたいと思っております。

中学部の記述に関して

⑦ー1 「あいさつ」は社会人としてのマナーもありますが、コミュニケーションの第一歩だと考えております。日頃より子どもたちには挨拶の重要性を指導している中、猛省が必要と感じます。特定はいたしません、すべての職員が子どもたちの模範となるよう指導していきたいと思っております。

高等部の記述に関して

なし

職員アンケート

幼4名 小10名 中10名 高13名 舎8名 事現3名 計48名 提出率88.8%
 評価項目 A:かなり思う B:やや思う C:やや思わない D:思わない 無:回答無し

表の中の % は否定的意見(C、D)の割合

	幼稚園(4)						小学部(12)						中学部(10)						高等部(13)						舎(12)						事務現(3)						合計(54)					
	A	B	C	D	無	%	A	B	C	D	無	%	A	B	C	D	無	%	A	B	C	D	無	%	A	B	C	D	無	%	A	B	C	D	無	%	A	B	C	D	無	%
1	0	4	0	0	0	0%	2	6	2	0	0	20%	5	5	0	0	0	0%	3	8	2	0	0	15%	2	6	0	0	0	0%	0	3	0	0	0	0%	12	32	4	0	0	8%
2	0	4	0	0	0	0%	2	7	1	0	0	10%	7	3	0	0	0	0%	2	9	2	0	0	15%	1	5	1	0	1	13%	0	3	0	0	0	0%	12	31	4	0	1	8%
3	0	4	0	0	0	0%	4	6	0	0	0	0%	7	3	0	0	0	0%	6	4	3	0	0	23%	2	5	0	0	1	0%	1	2	0	0	0	0%	20	24	3	0	1	6%
4	0	4	0	0	0	0%	0	7	3	0	0	30%	7	3	0	0	0	0%	5	6	2	0	0	15%	3	5	0	0	0	0%	0	3	0	0	0	0%	15	28	5	0	0	10%
5	0	4	0	0	0	0%	0	8	2	0	0	20%	8	2	0	0	0	0%	6	6	1	0	0	8%	4	3	1	0	0	13%	0	3	0	0	0	0%	18	26	4	0	0	8%
6	0	3	1	0	0	25%	1	4	5	0	0	50%	5	5	0	0	0	0%	2	5	5	0	1	38%	2	3	2	1	0	38%	0	3	0	0	0	0%	10	23	13	1	1	29%
7	1	3	0	0	0	0%	6	4	0	0	0	0%	7	3	0	0	0	0%	8	3	1	1	0	15%	4	3	1	0	0	13%	0	3	0	0	0	0%	26	19	2	1	0	6%
8	0	3	1	0	0	25%	4	5	0	0	1	0%	7	3	0	0	0	0%	5	5	2	0	1	15%	2	5	1	0	0	13%	0	2	1	0	0	33%	18	23	5	0	2	10%
9	0	4	0	0	0	0%	1	7	2	0	0	20%	7	2	1	0	0	10%	4	7	2	0	0	15%	2	4	2	0	0	25%	1	2	0	0	0	0%	15	26	7	0	0	15%
10	2	2	0	0	0	0%	6	4	0	0	0	0%	8	2	0	0	0	0%	9	3	1	0	0	8%	7	1	0	0	0	0%	1	2	0	0	0	0%	33	14	1	0	0	2%
11	0	3	1	0	0	25%	4	5	1	0	0	10%	8	1	1	0	0	10%	7	4	2	0	0	15%	3	3	2	0	0	25%	1	2	0	0	0	0%	23	18	7	0	0	15%
12	0	4	0	0	0	0%	0	8	2	0	0	20%	6	4	0	0	0	0%	4	7	2	0	0	15%	1	6	1	0	0	13%	0	3	0	0	0	0%	11	32	5	0	0	10%
13	0	3	1	0	0	25%	1	8	1	0	0	10%	7	3	0	0	0	0%	4	6	3	0	0	23%	2	5	1	0	0	13%	0	3	0	0	0	0%	14	28	6	0	0	13%
14	0	4	0	0	0	0%	4	6	0	0	0	0%	7	3	0	0	0	0%	8	4	1	0	0	8%	4	2	2	0	0	25%	1	2	0	0	0	0%	24	21	3	0	0	6%
15	0	3	0	0	1	0%	4	6	0	0	0	0%	7	3	0	0	0	0%	8	3	2	0	0	15%	5	2	1	0	0	13%	0	3	0	0	0	0%	24	20	3	0	1	6%

設問

- 1 教科学習、体験学習、学校行事等教育活動の全体を通じて、言語力が高まるよう一貫性統一性のある指導の工夫・改善に取り組む。
- 2 わかる授業の工夫により基礎学力の定着を図る。(ア)各教科等の基礎的・基本的事項の精選や重点化を行い、文章力の向上や抽象的概念の形成を図る。
- 3 わかる授業の工夫により基礎学力の定着を図る。(イ)指導校かを高めるためのICT活用を含む視覚的教材・教具の工夫・改善を行う。
- 4 発達段階に応じたキャリア教育の充実と高等部における進路指導と各生徒の進路ニーズに即した進路開拓に努める。(ア)各学部段階でのキャリア教育計画を作成する。
- 5 発達段階に応じたキャリア教育の充実と高等部における進路指導と各生徒の進路ニーズに即した進路開拓に努める。(イ)児童生徒の希望、適正等に応じた就業体験学習や進学支援、進路相談の充実に
- 6 教職員の専門性(知識・技能及び指導力)を高めるための諸研修の充実を図る。
- 7 地域における聴覚障害教育等に関するセンター的機能の充実を図る。(ア)幼稚部における乳幼児教育相談、小中学校からの通級による指導、各学部の特別支援教育コーディネーターによる教育相談等を通して、全校的に聴覚障害教育のセンター的役割を果たす。
- 8 地域における聴覚障害教育等に関するセンター的機能の充実を図る。(イ)諸関係機関とのネットワークを構築し、本校教育活動についての情報発信、理解啓発に努める。
- 9 あいさつの習慣化及び生徒指導に関する報告・連絡・相談の徹底を図る。
- 10 保護者の信頼と協力を得よう私費会計の執行管理を徹底するとともに、スクールバスの効率的で安全な運行及び給食・舎食の安全かつ衛生的な提供など、委託業者との連携を密にする。
- 11 美咲特別支援学校はなさき分校との共用となる施設・設備の効果的かつ適切な使用に努める。
- 12 カリキュラムマネジメントに努め、学習の成果を的確に捉え、個別の指導計画及び教育課程の評価と改善につなげるよう工夫を行う。
- 13 学校教育を通して身につけた知識及び技能を活用し、持てる能力を最大限伸ばすことができるように生涯学習への意欲を高める。
- 14 学部と寄宿舎は連携を密にし、児童生徒の課題について共通理解し、指導に努める。
- 15 寄宿舎は基本的生活習慣の定着を図り、個々に応じて健康・安全で豊かな生活をおくれるよう指導に努める。

職員からの質問等

設問11について

- 小1 幼小中高の連携した取り組み、研修が必要。
- 小3 教科の中で、又は自立活動の中で、どのように言語指導を行っているのかを通して考えていきたい。(小中高のつながり)
- 小5 3～6年のスパンでの指導の系統性や指導内容や課題の引き継ぎ及び実践に対する統一性はもの足りない。まずは全学部が関わる全体活動から統一性や一貫性を持った指導が行えるように改善に取り組んではどうか。

設問4について

- 高7 キャリアパスポートの活用について各学部との連携が十分でない。
- 小1 キャリア教育、進路に関して、幼小の保護者にも見えるように発信してほしい。
- 小5 育てたい、育つ子ども像を各学部段階での確認にとどまらず、入り口から出口までの捉えで見直してはどうか。(聴覚障害者のキャリア教育視点)

設問5について

- 小1 (問4と同じで)キャリア教育、進路に関して、幼小の保護者にも見えるように発信してほしい。

設問6について

- 舎4 特別支援や教科等の研修は出来ているかもしれないが、手話力の向上のためにはもっと回数が必要だと思う。(職員によって意識の差があるため)
- 舎6 今年度はコロナ感染予防のため、難しい面があったと思う。
- 高8 聴覚だけでなく、心理的な支援についての研修もまたあったらよいと思います。
- 小1 日々に追われ、時間がながろう教育の研修は全体的に行うべきだと思う。
- 小5 新職員研修と校内研修を含めて、本校の子どもたちの理解と指導につながる内容になっているのか、育てたい子ども像と絡めながら諸研修を見直してほしい。
- 小6 年間を通して、専門知識を得られるような研修体制を作る。

設問7について

- 小6 センター的役割として、何兆学級の担当者への情報提供(研修の実施)も必要では？

設問8について

- 小6 HPを充実させ情報発信を小まめに行う。

設問9について

- 舎4 「あいさつ」の捉え方について全職員で共通理解されていない。
- 小1 あいさつ運動が習慣だけでなく、日々、子どもたちに徹底した指導をすべき。

設問11について

- 中4 文化祭の練習時等で体育館の使用に限定があるが、その量は本当に適当であるとは思えない。

設問12について

- 中4 はじめに使用する時間を決めてから、それに合う内容を選択する考え方は教育内容に制限を生むと思う。
- 小6 カリキュラムマネジメントについての理解を深める。幼小中高との学びのつながりの見直し。

設問14について

- 舎6 宿題への取り組み方について共通理解は必要だと思う
- 高7 学舎連絡会も持てた。部屋担と学担との連携もとれている。